

温井ダム水位低下放流の目的

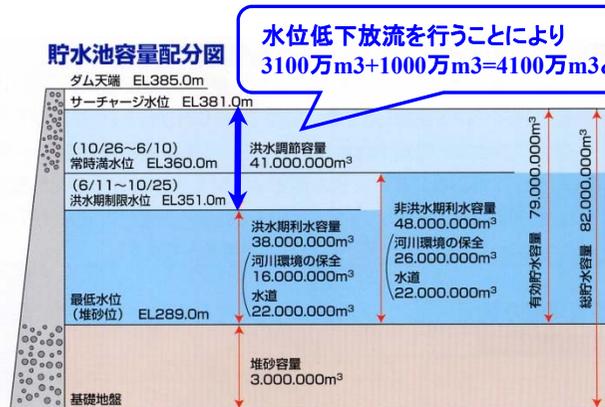


洪水に備えるための放流です！

水位低下放流とは、梅雨前線、局地的大雨及び台風等による洪水の恐れが多い時期(洪水期)に備えて、あらかじめダムの水位を下げて洪水を貯めるための容量を確保することが目的の放流です。温井ダムでは、この放流によって、管理する水位の高さを約9m下げることによって、1000万m³程洪水を貯めるための容量を増やすことができ、全体で4100万m³を洪水調節のための容量として活用します。

温井ダム容量配分図

- 非洪水期 10/26~6/10 (常時満水位 EL. 360.0m)
- 洪水期 6/11~10/25 (洪水期制限水位 EL. 351.0m)



水位低下放流を行うことにより
3100万m³+1000万m³=4100万m³となります。



水位を低下する前のダム湖の水位



水位を低下した後のダム湖の水位

洪水に備えて洪水調節容量を確保するために管理水位を下げておきます。

ダムへの流入量

放流により増える容量=1000万m³

非洪水期の管理水位

洪水期の管理水位

ダムから放流

中位標高放流設備からの放流

- ・例年4月~6月頃に計画的に放流しています。予定が決まった時点でHP, Twitter等でお知らせします。
- ・気象条件等によりお知らせした予定どおり実施出来ない場合があります。
- ・放流した水は、いったん副ダムに貯めるため、下流河川の水位が上昇することはない、生態系への影響はありません。



落差約60m!